

若手技術者育成誓う

道設備設計事務所協会が新年交礼会



北海道設備設計事務所協会は25日、ポールスタ―札幌で新年交礼会を開き、参加者約200人が設備設計業界の2017年の繁栄を願った。

種市由夫会長は、昨年9月に日本設備設計事務所協会の北海道・東北ブロック会議が成功したことを振り返った上で、17年は建築物省エネ法により、設備設計士の重要性が増すとし「技術の研さん、若手技術者の育成などを頑張っていこう」と呼び掛けた。

来賓あいさつでは、岩崎明平北海道開発局営繕部営繕整備課設備技術対

200人の参加者が新年の繁栄を願った

策官は、減災防災に向けて施設の老朽化対策などで設備設計士の力が求められると話した。道建設部の長浜光弘建築局長は、札幌医大などの大型工事がありそれに伴い委託の発注も増えている現状を説明。札幌市の大場里樹都市局長が、2020年冬季オリンピック・パラリンピック招致を目指すしていることともに、新年度の市の事業として学校整備や市営住宅に関するものが盛り込まれるなどの見通しなどが示された。

北海道建築士事務所協会の庄司雅美会長が乾杯の発声をして歓談に入った。